

令和3年度 自己評価表（中間評価）

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

年 度 当 初				評 価 結 果（9）月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 確かな学力の育成	○学力の向上	・基礎的な知識および技能の向上 ・主体的に学習に取り組む態度の育成 ・アクティブ・ラーニングに関する研修を全教科で取り組んでいる。 ・ICT機器を活用した授業等を取り組んでいる。(84%) ・評価方法を研究するとともに、更なる授業改善を推進する必要がある。 ・高度資格取得の合格率は66%である。	・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組んでいる。	・各教科一人以上がアクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価を実施 ・外部講師招聘による授業研究会を実施 ・ICT機器の授業活用が教員全体の85%以上を目指し、GoogleWorkspaceの活用、BYAD対応など研修を実施 ・Find!アクティブラーナー活用による授業改善の更なる促進	・各教科のアクティブラーニング公開授業は、計画中、ルーブリック評価に取り組んでいるが科目が限られている。 ・外部講師招聘の授業研究会は実施できていない。 ・ICT機器の活用は進んでいるが、人によって使用状況に差がある。 ・MeetやClassroomに関する研修を実施した。 ・GoogleClassroom等を授業で活用している教員が85%を超えている。 ・現在、十分な活用に至っていない。	C	・各教科、科目で12月中に公開授業を実施予定。
	○思考力、判断力、表現力の更なる向上		・SDGsの視点を導入し、探究学習を深化させ課題解決能力を高める。	・各系列ごと学校独自事業の充実、特別支援学校との交流 ・系列の特色化と資格取得を促進し、高度資格試験合格率70%以上 ・高度資格試験（英検2級、ビジネス文書1級等）の受験を促し、合格に向けてのサポート	・コロナのため1学期の介護・保育実習が中止となった。 ・「イチゴの栽培・収穫」は、プランターを選びビデオ交流を行った。 ・「花壇用草花植栽活動」は予定通り実施した。 ・デッサン講習会はリモートで実施した。 ・英検指導の充実、講習、個別指導を実施した。 ・ビジネス文書検定1級合格者1/1、情報処理検定合格者0/10、数学検定に向け、夏休業中に個別指導を実施。2級0/3、準2級1/4。 ・フラー装飾技能検定を受験した生徒のサポートが不十分だった。	B	・2学期中に保育実習、介護の模擬実習を予定。 ・2回目の植栽を11月に実施予定。
	○基本的生活習慣の定着		・遅刻者数が前年の15%減少	・遅刻確認票による遅刻指導の更なる強化	・遅刻者は減少しているが、遅刻確認票未提出の生徒もいる。	B	・本人への指導と保護者との連携強化に努める。
	○生徒の主体的活動の推進（国際交流・部活動）		・規範意識・安全意識の向上と排除の徹底 ・自転車ヘルメット着用率50%以上	・米子高生としての自覚を促す行動の啓蒙 ・SNS対策を中心とするデジタル・シティズンシップ教育の推進 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校として、安全意識向上を図るため機会を捉えて啓蒙・指導 ・排除の徹底と整理・整頓の推進、あいさつの励行	・8月にデジタルシティズンシップ講演会をリモートで実施。 ・問題行動は年度当初起こった。講演会後、SNSトラブルは発生していない。 ・ヘルメットは春より着用者が減った。（着用率5%程度） ・積極的に掃除・挨拶に取り組む生徒とそうでない生徒がいる。 ・自ら進んで挨拶する生徒が減少した。	B	・今後もSNSトラブルについて継続指導していく。
2 豊かな人間性の育成	○支援が必要な生徒への援助	・問題行動ゼロは達成できなかったが、殆どの生徒が規範意識を持って生活している。 ・自転車ヘルメット着用率は15%である。 ・外部機関（SSW、児相、医療機関、要対協）との連携を密にし、早期に対応することができている。 ・学校生活アンケート(1月)で自己肯定感を認める生徒は59%である。	・生徒の各種活動への積極的参加	・生徒会執行部による各種自主的活動の充実 ・マスコットキャラクターの制作 ・部活指導員・外部指導者の活用による部活指導の充実と時間外業務削減(月45時間以下、年間360時間以下の遵守) ・アメリカ・韓国の姉妹校とのオンライン交流 ・生徒会による「はるかひまわり絆プロジェクト」の実施	・青雲祭、荒鶯祭など執行部が中心となり工夫して実施した。 ・部活指導員の活用により該当部活動における時間外業務は40%減少した。 ・オンライン交流を進めるために、連絡を取り準備を進めている。 ・はるかひまわり絆プロジェクトを計画通り実施し、種の収穫ができた。	B	・オンライン交流に向けてさらに準備を進める。
	○進路指導の充実		・生徒情報共有し適切なサポートができています。	・研修会による情報共有と委員会等による適切な対応	・エビイベントの職員研修を行うなど、生徒へのサポートができた。 ・情報共有に関する会議等は予定通り実施できている。教育相談連絡会(9/3、10月下旬)を実施する。 ・年度当初の配慮を要する生徒の引継会における非常勤講師の出席が他校兼務で一名にできなかった。	B	・迅速な情報共有を積極的にい、早期の人間関係修復に繋げる。
	○キャリア教育の発展		・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようきめ細かにサポート ・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHR運営の構築	・SDGsに基づいたビジネスプランを考えた。 ・2年次においてSDGsを主眼に置いた学習を始めているが、研究内容・手法ともにまだ途上段階である。 ・キャリアパスポートを使った計画立案、学期振り返りを実施した。 ・キャリアパスポートの有効的な利用方法についての研究が必要である。	B	・クローバープロジェクト部会で今後検討する。
	○進路指導の充実		・地域連携によって学校への信頼、期待が高まっている。	・教員の指導力向上と外部指導者の活用 ・生徒が進路目標を明確にし、その実現に向けて努力する態度の確立 ・大学進学20名、(内、国公立大学5名)	・1月の発表に向けて準備を進めている。 ・コロナ禍で他校招聘は今年度は行わない。 ・教員研修については、PTA総会後に大学、短大、専門、就職に3部門に増やして、保護者・教員の合同開催として実施した。 ・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施と進路実現	C	・探究学習を活用した入試対策等を検討する。
3 自己実現のための進路指導の充実	○進路指導の充実	・産業社会と人間・テーマ学習(R2)が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少 H30年度25名(9名) R1年度20名(3名) R2年度16名(3名) ()は国公立	・文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える。	・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進 ・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活発化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」「プログラミング教室」による地域貢献の推進 ・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実 ・総合美術展の開催による情報発信	・コロナ禍で開催できていないが、尚徳公民館より依頼を受け、尚徳小学校の前においてあいさつ運動看板のイラストを生徒が作成した。 ・公民館への絵画作品の貸し出しも実施した。 ・今年度はコロナ禍で実施が困難。 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」を通じて地域貢献の意識が高まっている。 ・実施に向けて準備中。 ・実施に向けて準備中。	C	・次回の会議で具体的連携内容を協議。
	○進路指導の充実		・学校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。	・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」を通じて地域貢献の意識が高まっている。 ・実施に向けて準備中。 ・実施に向けて準備中。	B	・文化ホール花壇、米子市役所プランターの設置に向けた苗の準備を適切に実施。
	○進路指導の充実		・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答した生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。 ・SDGsに基づいたビジネスプランを考えた。 ・2年次においてSDGsを主眼に置いた学習を始めているが、研究内容・手法ともにまだ途上段階である。	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する。
	○進路指導の充実		・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。 ・SDGsに基づいたビジネスプランを考えた。 ・2年次においてSDGsを主眼に置いた学習を始めているが、研究内容・手法ともにまだ途上段階である。	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する。
4 地域との連携による学校づくり	○進路指導の充実	・産業社会と人間・テーマ学習(R2)が進路実現に反映されている。 ・大学進学者が減少 H30年度25名(9名) R1年度20名(3名) R2年度16名(3名) ()は国公立	・文化芸術活動の拠点校として、地域のニーズに積極的に応える。	・学校運営協議会を活用した地域連携活動の推進 ・中学校アクティブ・ラーニング出前授業、地域の教育活動拠点としての生徒活動の活発化 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」「プログラミング教室」による地域貢献の推進 ・「高校生出前キャリアガイダンス」の充実 ・総合美術展の開催による情報発信	・コロナ禍で開催できていないが、尚徳公民館より依頼を受け、尚徳小学校の前においてあいさつ運動看板のイラストを生徒が作成した。 ・公民館への絵画作品の貸し出しも実施した。 ・今年度はコロナ禍で実施が困難。 ・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」を通じて地域貢献の意識が高まっている。 ・実施に向けて準備中。 ・実施に向けて準備中。	C	・次回の会議で具体的連携内容を協議。
	○進路指導の充実		・学校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。	・「花壇用草花植栽活動」「イチゴ栽培・収穫」を通じて地域貢献の意識が高まっている。 ・実施に向けて準備中。 ・実施に向けて準備中。	B	・文化ホール花壇、米子市役所プランターの設置に向けた苗の準備を適切に実施。
	○進路指導の充実		・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答した生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。 ・SDGsに基づいたビジネスプランを考えた。 ・2年次においてSDGsを主眼に置いた学習を始めているが、研究内容・手法ともにまだ途上段階である。	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する。
	○進路指導の充実		・豊かな人間関係を築き、共に生きる力を育み、主体的に考え行動できる生徒の育成	・高校生活アンケート(12月)で自己肯定感が高いと回答する生徒が78.5%だった。	・10月より人権教育LHRの実施する。ゲストティーチャーはコロナ対応で中止。 ・SDGsに基づいたビジネスプランを考えた。 ・2年次においてSDGsを主眼に置いた学習を始めているが、研究内容・手法ともにまだ途上段階である。	B	・自己肯定感を高めるきめ細やかなサポートを継続する。

評価基準 A: 目的・目標を達成した B: ほぼ計画(予定)どおり推進している C: 取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D: 一層の(新たな)取組が必要